

# 「20年の歩み」

大阪建設機械リース協同組合  
副理事長 永田 仁作



建設機械リース・レンタルは昭和28～30年頃いわゆる戦後の国土復興がようやく軌道にのり始めた時、大阪でユーザーの要望により短期間の賃貸（レンタル）が始まったのがそもそも発祥であります。

同時にこの頃より相互協調の精神から団体結成への声が盛り上がり、現在、本組合の長老である相互土建機械社長の小田切治郎氏や現理事長志茂坂敏氏の骨折りで時の業者14社を集め大阪建設機械商組合が発足いたしました。

その後、数回の会合を重ね昭和32年5月に全国初のリース・レンタル業の団体として正式に「大阪建設機械商組合」を設立、大阪府知事の

認可を受け初代理事長に姫野通雄氏が就任し、待望の団体活動が軌道にのりだしたものであります。

当初は、組合員の数も14社であり、それぞれの保有機械の台数も少ない状態でありましたがユーザーの賃貸に対する要望も年々増えつつある傾向にあったため理事長の発案にて組合で機械を確保し、これを組合員が共同利用することが検討され、その実施に伴い業界も順調に発展の帆を進めてまいりました。またこの間、昭和37年には組合設立5周年を記念して記念式典を実施、創立功労者と従業員の永年勤続者の表彰を行い組合意識の向上を計りました。

## 当初はI 4社で発足

昭和38年5月に開かれた総会において姫野通雄氏の理事長辞退に伴い故脇田竹広氏が理事長に就任、そのあいさつの中で今後組合員の増加と全国組織の結成を図ることが強調されました。

ところで、昭和30年代から急速に進展した建設の機械化はわれわれレンタル・リース等に大きな影響を及ぼすと同時にその発展の礎とな

ったのであります。特に東京オリンピックや日本万国博等の関連工事において建設の機械化はいよいよ本格化の様相を呈し、レンタル・リースの利用価値が再認識されたことは周知の通りであります。

このような情勢の中で組合員も増加の一路をたどり、併せて組合組織の強化も進んでまいり、

昭和 43 年には「大阪建設機械リース協同組合」に改組し、組合員の地域も近畿 2 府 4 県にまたがり、大阪通商産業局長の認可を受け、名実ともに業界のリーダー役としての基盤を確固たるものとしたのであります。

一方、全国組織の編成については、全国の地区協会と緊密な連繫を図りながら積極的に話し合いを進め、昭和 45 年遂いにその設立を実現、発会式を大阪商工会議所において盛大に挙行、

ここに名実ともに全国の同業者が力を合せて業界の発展に邁進する礎えが築かれたわけであり、全国組織である「全国建設機械リース業連合会」の初代会長には故脇田竹広氏が就任され、耐用年数の短縮化をはじめ登録制、社団法人化等の目標を掲げて積極的に連合会活動を推進してまいりましたが、惜しくも脇田竹広氏は昭和 49 年に他界されました。氏の業績は惜しみても余りあるものと思われま

## 先輩諸氏の先見の明に敬意

現在、本組合の管轄範囲は大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県の 2 府 4 県にまたがり、組合員数も 80 数社におよんでおります。組合発足当初の頃より思えば、その組織がいかに強大なものとなったかお判りいただけ

ます。

建設の機械化の進展とともに急速に発展したわれわれレンタル・リース業の今日の隆盛をみます時、先輩、先覚諸士の努力と先見の明に改めて敬意を表する次第です。